

■視覚支援学校における実践事例

マルチメディアDAISY図書の啓発

―校内への周知の仕方について

横浜市立盲特別支援学校
小島 智子・露崎 謙治

はじめに

本校には、幼稚部から小学部中学部高等部普通科に加え、あん摩・マッサージ師およびはり・きゅう師をみざす生徒たちが学ぶ専攻科までがあります。学校図書館は、在籍する幼児・児童・生徒、教職員のほかに、保護者や卒業生、またセンター機能として、近隣の小中学校の個別支援学級や弱視学級にも利用されています。

学校図書館には、視覚障害者が利用するための設備・機器が整えられており、その一つとしてマルチメディアDAISY図書があります。

本校では、通常の文字サイズでは読みにくい弱視の子どもたちに、マルチメディアDAISY図書の活用の有効性を検討するために、数年前から、図書館の授業の中で活用してきました。

しかし、保護者や教職員間へと、その活用を広めていくことがなかなかむずかしく、その過程では、マル

チメディアDAISY図書のタイトル数の少なさや、入手の困難さも要因の一つとして考えられました。

昨年度、伊藤忠記念財団からたくさんの方のマルチメディアDAISY図書を寄贈していただいたことをきっかけに、学校内でも図書館支援部を中心として、さまざまな取り組みを行いました。

ここでは、子どもたちや教職員に対し、どのようにしてマルチメディアDAISY図書を通しての読書の広がりを進めていったか、その取り組みについて報告します。

図書館内の環境整備

(1) マルチメディアDAISYの分割

絵本が1冊1冊であるように、わいわい文庫も1冊単位にすることの必要性を感じ、まずは分割作業から始めました。図書館のボランティアにその作業を依頼して、わいわい文庫にどのような図書が入っているの

かをわかりやすくするために、1CDで1タイトルにすることにしました。

また、書誌情報が子どもたちや教職員にも一目でわかるようにするために、DVDボックスには本の表紙を入れ、背表紙のタイトルもつけて整備を行いました。



分割したマルチメディアDAISY図書

(2) マルチメディアDAISY図書コーナーの設置

本校のDAISY棚の隣に、マルチメディアDAISY図書コーナーを設置しました。その一つひとつには、バーコードをつけて図書カードを使用し、誰でも貸出しができるようにしました。



マルチメディアDAISY図書コーナーの設置

(3) 閲覧環境の整備

図書館の環境整備として、マルチメディアDAISY図書専用のパソコンを設置しました。

閲覧ソフト「AMIS」をパソコンに入れたり、わいわい文庫の操作方法が誰にでもわかるように使用方法をパウチしたものをパソコン近くに設置したりして、環境の整備を行い、全校にそのことを知らせました。



マルチメディアDAISY専用のパソコン

本校図書館に設置しているiPad 3台にも、マルチメディアDAISY図書を再生するためのアプリケーション「Voice Of DAISY (VOD)」を入れて、わいわい文庫の図書を整理し、持ち運びができるようにしました。

iPadにマルチメディアDAISY図書を入れることで、教室でも手軽に使用でき、子どもたちが楽しむことができました。

また、今年の課題図書も、図書館

ボランティアに依頼して、マルチメディアDAISY図書にしました。とくに、写真絵本の課題図書では、自分の見やすい大きさに自由に写真を拡大できるので、今までよりも鮮明に見ることができ、子どもの喜ぶ様子が見られました

校内での周知について

毎月出している図書館ニュースに、わいわい文庫に関する記事を掲載したり、図書館の掲示板を利用して新しく入ったわいわい文庫の紹介をしたりしました。

いろいろな方法で、校内に宣伝することで、保護者や教職員などもマルチメディアDAISY図書を借りていくことが少しずつ増えてきました。また、視覚だけでなく読みに困難を抱えている子どもの支援として近隣の個別支援学級へ、本校のマルチメディアDAISY図書の貸出しも行いました。



図書館掲示板での紹介

教職員への周知について

4月には新転任の教職員を対象とした図書館研修で、機器の一つとしてマルチメディアDAISY専用のパソコンを紹介し、実際に操作をしてもらいました。

夏休みには、教職員を対象に、「視覚障害者のiPadとマルチメディアDAISYの活用について」というテーマで研修会を開きました。この研修会には、県内の弱視児童・生徒を担当する教諭の参加も数名ありました。

約2時間の研修で、前半には、本校の子どもたちの事例などを写真や動画を使用しながら紹介し、全般的な機器やアプリについての説明を行いました。

後半には、実際にマルチメディアDAISY図書やiPadのVODアプリを操作してもらい、実習を行いました。

受講者からは、「iPadでマルチメディアDAISY図書が使用できることを知らなかった」「読みたい大きさに文字が変えられるので、音声を消して、弱視の児童に音読の練習ができる」などの生の声がありました。

最新の機器などを知ってもらえるいい機会となり、夏季研修を終えた後にも、使用方法や入手方法に関する質問などがあり、研修する機会の意義を感じることができました。



夏季研修会の様子

小学部での利用

小学部では、iPadを授業の中で活用する研究が行われ、ICTを活用した授業が定着しつつあります。

マルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」が登場し、図版の拡大率や文字の追従機能が格段に向上したものを目にする事ができました。

これは、国語の教科書データを拡大する機能は付いていませんが、絵本や本を見るには十分な機能が備えてあります。

この「わいわい文庫」をパソコンの広い画面で子どもに視聴させたところ、各児童の見やすい文字の大きさに自由に設定ができることができたため、とても見やすいとの評価を得ることができました。

また、わいわい文庫CDを1話ずつ分割することができたため、従来は教員がCDの目次上から選んで見せていた形式でしたが、1CD 1話の表紙を見ながら子どもたちが自由に読み

たい本を選べるようにしたことは有効でした。この工夫により、他の図書と同様にして、本を選んで見る楽しさが増加したように感じます。

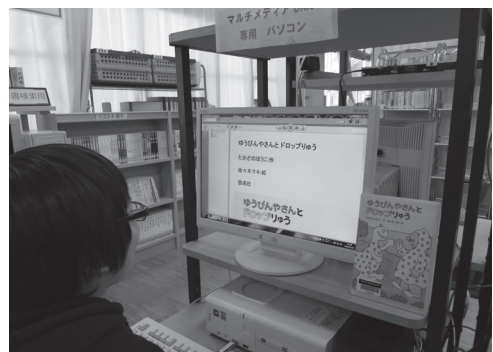
今では、盲児がDAISY図書を選んで聴くのと並行して、弱視の子どもがマルチメディアDAISY図書を選んで視聴する場面も見られています。

また、低学年グループの国語の図書の時間にも利用があり、少しずつマルチメディアDAISY図書の存在が理解され、普及しはじめています。

以下の写真は、低学年の子どもが絵本を見ている場面です。文字の自由拡大によりそれほど画面に近づかなくても、読める距離が確保されている様子が見られます。



iPadで見る子どもの様子



図書の時間の様子

おわりに

パソコンやiPadを介さないと、マルチメディアDAISY図書を活用することができないということで、機械類が苦手な保護者や教職員には抵抗があるように感じていました。

しかし、一度操作方法を習得すると、決して難しいものではなく、簡単に利用できるということを、体験を通して実感してもらうことができました。

研修の機会を設けることで、利用者数が少しずつ広がっていているのを感じています。

学校でも、実習を含む研修の機会を今後も継続的に設けていきたいと考えています。

また、本校では、七夕、クリスマス、節分などの季節に関する本がとても人気なので、そのような本も含め、もっとたくさん本がマルチメディアDAISY図書になることを願っています。

